

### (3) 働き方改革を推進するための組織的な取組・体制づくり

本市の教員の時間外在校等時間の平均<sup>1</sup>は、令和5年度11月において小学校教員等で41時間20分、中学校教員等で46時間00分となっており、令和3・4年度と比較して段々と減少している。一方で、小・中学校併せて700人近く（全体の約4割）の教員等が、月あたりの時間外在校等時間が45時間を超えており、また、管理職も同様に45時間を超えている校長・副校長・教頭が多い。教職員一人ひとりの心身の健康保持を実現し、子どもたちと向き合う時間の確保によって、学校教育の質の維持向上を図るためには、現状の校務の分析・整理を行い、ICTの活用による校務の効率化を図るなど、教員の校務にかかる時間を減少させる必要がある。

#### ア 全国学力・学習状況調査（小・中学校）

当該調査は、例年4月に文部科学省が、学校運営に関する状況及び教職員の資質向上に関する状況を把握することを目的に調査しているものである。

令和4年度調査では新たにICTを活用した校務の効率化に関する調査項目が設定され、令和5年度調査ではさらに項目が整理された【表】。

---

<sup>1</sup> 「学校における働き方改革推進プラン」、令和6年3月策定、柏市教育委員会

【表】令和5年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査の結果

| 番号 | 質問   | 校種 | ①           | ②           | ③ <sup>2</sup> |
|----|--|----|-------------|-------------|----------------|
| 16 | ICT を活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか   | 小  | <b>38.1</b> | <b>61.9</b> | <b>0.0</b>     |
|    |  |    | 26.5        | 72.0        | 1.5            |
|    |  |    | 28.9        | 69.4        | 1.5            |
|    |  | 中  | <b>28.6</b> | <b>71.4</b> | <b>0.0</b>     |
|    |  |    | 26.4        | 71.2        | 2.4            |
|    |  |    | 26.9        | 70.8        | 2.2            |
| 17 | ICT を活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか | 小  | <b>66.7</b> | <b>31.0</b> | <b>2.4</b>     |
|    |  |    | 41.3        | 55.2        | 3.3            |
|    |  |    | 37.4        | 58.7        | 3.8            |
|    |  | 中  | <b>47.6</b> | <b>52.4</b> | <b>0.0</b>     |
|    |  |    | 38.6        | 57.9        | 3.5            |
|    |  |    | 37.5        | 58.4        | 4.1            |

全国学力・学習状況調査によると、小・中学校ともに各質問の実施回答が全国や県平均に比べて上回っており、本市の公立小・中学校における ICT を活用した校務の効率化は進んでいると考える。特に「クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）」については、全国や県平均に比べて実施回答が大幅に上回っており、教育委員会が目指している ICT 環境の整備や DX 化が反映されているものと考えられる。引き続き、各小・中学校それぞれの実態や課題に基づいて、教育委員会と連携しながら、取組を推進していくこととする。

<sup>2</sup> ①～③の回答項目について ①十分に取り入れている ②一部取り入れている ③全く取り入っていない（上段:柏市 中段:千葉県 下段:全国 単位は%）

## イ 学校における働き方改革推進プラン（柏市）

本プランは、千葉県教育委員会が令和3年3月に改定した「学校における働き方改革推進プラン」に準じ、本市の公立小・中学校及び、設置者である柏市教育委員会が同じ方向性で協働しながら働き方改革を推進していくために策定されたものである。

本市の目標として、「子どもたちと向き合う時間を確保できている」「ワーク・ライフ・バランスを確保できている」という実感が持てる教員を増やしていくために、具体的取組を掲げ、ICT を活用した業務改善に向けた取組を盛り込むとともに、各取組の方針や方策を講じていくこととした。

### 学校における

### 働き方改革

### 推進プラン



未来につなぐ  
柏の教育

学び続ける力の育成  
多様性の尊重  
安全・安心な学校づくり

柏市教育委員会  
令和6年3月策定



【図】学校における働き方改革推進プラン ～教育委員会の取組～抜粋

|   | 取組の方針          | 教育委員会の具体的方策（例）  |
|---|----------------|---|
| 4 | ICT 環境の整備・DX 化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムの導入により多岐にわたる校務を一元化する。</li> <li>・教室の ICT 環境の整備，校務や学習の貸与端末などの充実などを図る。</li> <li>・クラウドやアプリ等の使用や制限の在り方を常に見直し，教職員の「働きやすさ」や児童生徒の「学びやすさ」の視点からも利活用を推進していく。</li> <li>・校務系と学習系で，ネットワークやツール，アカウントなどを適切に分け，校務や学習の DX 化の促進を図る。</li> <li>・クラウドや WEB サイト，学習 e ポータルなどを活用することで，校務や授業に役立つ様々な教材や情報等を共有できる環境を構築していく。</li> </ul> |
| 5 | 在校等時間の適正化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校等時間の客観的な記録や把握ができる出退勤システムを導入する。（校務支援システムと連動した QR コードによる打刻及び記録）</li> </ul>  |

これらの取組に対し、目標の達成状況を定期的に検証しながら、必要に応じた見直しを適宜図っていくべきものとしている。また、学校の取組については、教育課程の編制主体である各校の地域性や独自性を踏まえたものとなるようにし、その際に「柏市の小中学校における働き方改革セルフチェックリスト」を適宜活用しながら、自校の取組の状況を自己評価、点検、改善するサイクルをとれるようにしている。

**【図】学校における働き方改革推進プラン ～柏市の小中学校における働き方改革セルフチェックリスト～抜粋**

|   |  |
|---|--|
| 4 | ICT の積極的な活用や、汎用クラウドツールを活用した教職員課での情報交換の励行や会議のペーパーレス化や DX 推進，学校と保護者間の連絡手段（遅刻・欠席連絡，緊急時の一斉連絡，学校・学級だより，アンケート等）を原則としてデジタル化するなどの取組を進めている。 |
| 5 | 客観的な在校等時間の記録や正確な把握に努めている。（校務支援システム活用）各教職職員の時間外在校等時間が月に 4 5 時間，年度で 3 6 0 時間の範囲内となるように業務量を調整している。                                    |

また、質の高い教育を実現するための業務改善に向けた取組例<sup>3</sup>として、「柏市モラールアップ推進委員会代表者会議」において、「働き方改革アクションプランシート」が各校で作成されているのだが、そこには ICT を活用した業務改善例が多く示されている。引き続き、このような ICT を活用した業務改善について理解を深める機会を設け、各学校への情報共有を行っていきたい。

<sup>3</sup> 「【柏市版】業務改善の取組事例」，令和6年2月，東葛モラールアッププロジェクト

### (3) ICT推進体制の整備と校務の改善

昭和62年度に柏市立田中北小学校にコンピュータ47台を設置し、同校を拠点校として柏市の情報教育を推進していったことをはじめとし、本市では古くから社会の情報化の進展に対応した教育の充実のため、学校における情報教育を推進してきた。

市内の学校における情報教育を推進するため、本市では教育委員会学校教育部指導課を事務局に、市内小・中学校校長、並びに教頭、教諭（高等学校教諭も含む）、教育委員会職員からなる「教育の情報化推進委員会」を設置し、情報教育推進計画の検討や当該年度の導入コンピュータ等の検討、教職員を対象とした情報教育に関する研修計画の検討等を行っている。

また、各小・中・高等学校情報教育担当者を対象に、年2回の「情報教育担当者連絡会」を開催し、最新情報や留意事項の連絡等を行っている。

さらに、本市における情報教育の推進に資するため、兼ねてより民間のコンピュータ取扱能力等の高い者を市内公立小・中学校、柏市教育委員会事務局に配置し、インターネットやコンピュータを活用した授業の支援、研修、教材作成のためのアドバイザーとして活用している。

ICTを活用した校務の改善においても、各校の様々な取組事例を共有し、「学校における働き方改革推進プラン」の目標達成に向け、引き続き様々なデジタル化を進めていく。またICTを活用を安全に取り入れるために、情報資産を扱う教職員に向けて情報モラルの育成やサイバー攻撃に対する危機管理能力の向上を図る。

このようにICT推進体制の整備が進められていく中で、教育データの利活用を推進していくことはとても大切である。国や県の動向を踏まえつつ、積極的な情報収集と周知を行っていく。

## 【ICT 推進体制の整備と校務の改善に向けた基本的な考え方】

### 柏市教育委員会による支援体制

- ・ 「柏市 GIGA スクール構想」を基に，市全体の教育の情報化を推進するべく，ICTに係る支援体制を構築する。

- a. 柏市教育委員会と学校間のサポート体制の構築
- b. 1人1台端末を活用した授業改善検討委員会（1 to 1 委員会）
- c. 学校間の好事例の共有や研修等の実施

### IT 技術・教育データの利活用

- ・ 1人1台端末の整備が完了し，学校現場では更なる ICT 利活用環境の強化が必要となっている。その流れをもとに，ICT 活用によって学習者主体の教育への転換や教員がより児童生徒と向き合える環境を築くことを目指していく。

- a. 教育データ利活用の推進
- b. MEXCBT 活用事例の収集や活用の促進
- c. デジタル教科書及びデジタル教育コンテンツの活用事例の収集や活用の促進

## ICT を活用した校務の改善

- ・ ICTの活用により校務の効率化を図り、教員の長時間勤務を解消し、学校の働き方改革を推進する。
- ・ 市教育委員会の発出事項をデジタル化することにより、教員の事務的負担及び教員の多忙感を軽減する。

- a. ICT を活用した校務（学習指導含む）の効率化
- b. 統合型校務支援システムの導入
- c. 学校保護者間連絡システムの導入
- d. 教育委員会発出文書削減の取組
- e. 「柏市教育情報セキュリティポリシー」の定期的な周知・運用の確認

### (3) 校務「教員の意欲を高める校務 DX」

#### 【KGI】

|   |
|---|
| 校務を分析・整理し、ICT活用も含めた教員の働き方改革を推進している学校の割合<br>→目標値100% (小・中 各10校程度の抽出調査) |
|---|

#### 【KPI】

|                      |
|----------------------|
| ・校務の見直しと分析・整理を行っている。 |
|----------------------|

|                    |
|--------------------|
| (学校における働き方改革推進プラン) |
|--------------------|

|   |
|---|
| ・学習指導に係る業務（授業、授業準備、課題作成等）へのICTの積極的な活用を推進する。 |
|---|

|                    |
|--------------------|
| (学校における働き方改革推進プラン) |
|--------------------|

|              |
|--------------|
| ・校務の情報化の推進状況 |
|--------------|

|                    |
|--------------------|
| (学校における働き方改革推進プラン) |
|--------------------|

|             |
|-------------|
| ・学校運営に関する状況 |
|-------------|

|                    |
|--------------------|
| (全国学力・学習状況調査(小・中)) |
|--------------------|

|                          |
|--------------------------|
| ・ICTを活用した校務・事務負担軽減のための取組 |
|--------------------------|

|                    |
|--------------------|
| (学校における働き方改革推進プラン) |
|--------------------|

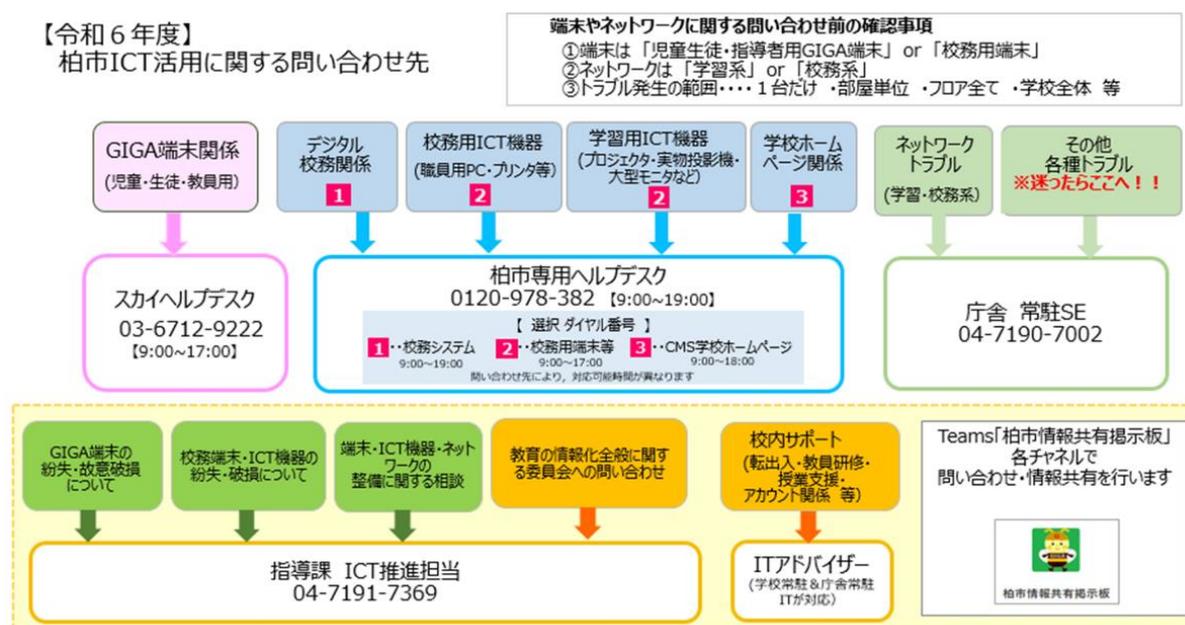
第2章 各論 1 基本的な方針を実現するための方向性  
**(3) ICT 推進体制の整備と校務の改善**

**① 柏市教育委員会による支援体制**

**a. 柏市教育委員会と学校間のサポート体制の構築**

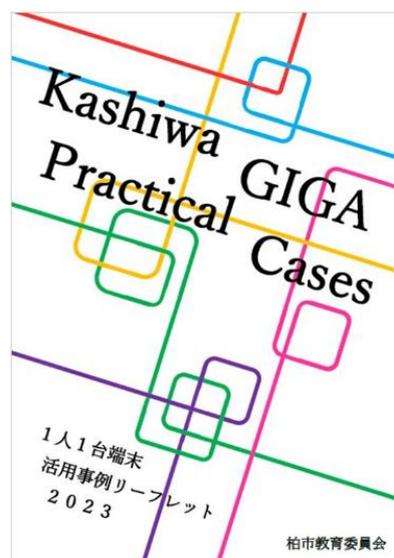
柏市では、ICT に関する様々な課題に対して対処できるように、複数の問い合わせ先を設け、対応できるようにしている（図）。具体的には、学校内の ICT 支援として全小・中学校に IT 教育支援アドバイザーを配置したり、「柏市 GIGA スクール Web」での情報提供や Microsoft Teams に開設した「柏市情報共有掲示板」を活用したりすることで、支援や情報共有を行っている。

**【図】柏市 ICT 活用に関する問い合わせ先**



## b. 1人1台端末を活用した授業改善検討委員会（1 to 1 委員会）

本市では、STEP を設定し、段階的に経験を重ね、学んだことを使う中で基本的なスキルを身に付けていけるように「柏市 GIGA スクール構想」が策定されている。その中で、本市における1人1台端末活用の研究を推進し、子供たちの「情報活用能力」の育成に資するため、令和3年より、1人1台端末を活用した授業改善検討委員会を設置した。特に令和3年から令和5年度までは情報活用能力の育成を、令和6年度はその育成した力を活用した探究的な学びを目標に実践している。この委員会の成果については、毎年「柏市 GIGA スクール web」に掲載するとともに、リーフレットを作成し、全校へ周知している。



## c. 学校間の好事例の共有や研修等の実施

市内全ての児童生徒に ICT 活用を「日常的」なものとし、ICT の恩恵を享受できるように、各学校より ICT 活用事例等を収集し、Microsoft Teams を用いて情報発信している。また、長期休業中には、夏季情報研修講座を設け、職員が自己研鑽できる研修等を実施している。

### ②IT 技術・教育データの利活用

#### a. 教育データ利活用の推進

文部科学省が掲げる教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進の中で、教育データ利活用によって、全ての児童一人一人の力を最大限に引き出すためのきめ細かい支援を可能にすることが期待されており、本市としても推進を図っているところである。

例えば、デジタルドリルによる児童生徒の学習状況の把握、学習 e ポータル（L-Gate）から各種ツールの利用回数を把握、Google Classroom での学習成果物等の振り返りや取組状況の把握などが見られ、児童生徒 1 人 1 人の進捗状況やつまずきを可視化し、スタディ・ログを活用して児童生徒の個別支援を実現している。引き続き様々な事例の収集を行いつつ、教育データ利活用を推進していく必要があり、そのための組織体制づくりを検討していく。

## b. MEXCBT 活用事例の収集や活用の推進

本市では、「文部科学省 CBT システム（MEXCBT）」を令和6年度から導入し、家庭学習や全国学力・学習状況調査等に活用している。令和6年2月現在で国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題が約4万問搭載されていることから、その活用の推進や好事例の共有を図っていきたい。

なお、千葉県教育委員会が作成している「ちばっ子チャレンジ100（小学校）」「ちばのやる気学習ガイド（中学校）」も搭載しており、これまでの紙媒体時と同様に積極的な活用をしていきたい。

## c. デジタル教科書及びデジタル教育コンテンツの活用事例の収集や活用の促進

本市では以下のように、デジタル教科書や様々なデジタル教育コンテンツを導入している。これらの活用による好事例や期待される効果について収集、周知をしていく。

|  |   |
|--|---|
| ＜学習者用デジタル教科書＞  |   |
| 小  | ・算数（5, 6年生）・英語（5, 6年生）・地図帳 ・書写<br>・デジター教科書（特別支援児童対応 全教科）<br>・わたしたちの柏（3, 4年生 社会科副読本） |
| 中  | ・数学 ・英語 ・デジター教科書（特別支援児童対応 全教科）<br>・郷土かしわ（社会科副読本）                                    |
| ＜指導者用デジタル教科書＞  |   |
| 小  | ・国語 ・算数 ・理科 ・社会 ・英語 ・書写 ・地図帳 ・音楽  |
| 中  | ・国語 ・数学 ・理科 ・社会 ・英語   |
| ＜デジタル教育コンテンツ＞  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・コラボノート（ノート作成・テキストマイニングなど）</li> <li>・事例で学ぶネットモラル（CBT、学習状況把握）</li> <li>・【小】スマイルネクストドリル（課題配付、学習状況把握など）</li> <li>・【中】ミライシードドリル（課題配付、学習状況把握など）</li> <li>・MottoSokka！（総合百科事典）</li> </ul> |   |

### ③ICT を活用した校務の改善

#### a. ICT を活用した校務（学習指導含む）の効率化

令和6年3月に策定された「学校における働き方改革推進プラン」に基づく取組を計画的に進めていく。特に県教育委員会の流れに沿い、市教育委員会が実施する調査等にICTを活用し、教員や学校の負担軽減を図るとともに、市教育委員会へ行われる申請や届出等の押印の廃止を進めるなど、校務の効率化のため、ICTの積極的な活用を推進していく。

また、市教委の取組だけでなく、様々な学校での取組についても、学校間の情報共有を進め、校務へ反映させていく。

#### b. 統合型校務支援システムの導入

令和5年度より、統合型校務支援システム（株式会社内田洋行提供の「デジタル校務」）を導入し、校務の処理効率を高めることで、教育の質の向上を図るとともに、教職員の事務負担の軽減による教職員の働き方改革を図ることとした。特に運用ルールについては、教育の情報化推進委員会等と連携を図り、校務支援システム運用開始後も運用定例会を開催して見直しを図るとともに、学校選択としている機能の利用拡大についても、業務の効率化を図るための適正化及び標準化の観点から適宜検討していく。

一方で、現在の統合型校務支援システムは、クラウド時代の教育DXには適合しなくなってきていることから、国の動向を踏まえ、次世代の校務デジタル化についても検討していく。

#### c. 学校保護者間連絡システムの導入

本市では以前より、緊急時の一斉連絡や教育委員会、学校からの保護者へのお知らせ配信について、「すくすくメール」を活用してきた。さらに、令和2年10月に文部科学省より通知された「学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化の推進」を受け、Microsoft Formsを活用した欠席連絡やアンケートを、学校の実情に応じてできるところから開始するよう通知し、デジタル化の推進を図ってきた。これに加え、学校独自に専用システムを導入し、お便りのデジタル化に着手する学校も増えてきた。

しかしながら、このような現状では、欠席連絡とお便り配信は別のツールを利用していたり、学校によって利用するシステムが異なっていたりしたため、保護者や学校の利便性という点では改善の余地があった。

そこで本市では令和6年度より、多様な連絡手段による教職員の業務非効率性の解消と保護者の利便性向上を目的とし、学校と保護者間のスムーズな連絡を可能にするため「sigfy（シグフィー）」を導入した。主に欠席連絡やメッセージ送信機能などが利用でき、市内全ての小・中学校、学校運営協議会、教育委員会での一斉導入により、保護者と学校のコミュニケーションが一段とスムーズになるほか、将来にわたる教育現場の連絡手段の標準化と学校運営の効率化の実現を目指している。

#### **d. 教育委員会発出文書削減の取組**

ICT を活用することで校務の効率化を進めることができることは確かであるが、例えば令和5年度に本市教育委員会学校教育部各課から各小中学校へ発出された文書は約6500通であり、各学校の文書受付業務負担となっていることが見受けられる。働き方改革の視点や情報提供・情報共有の視点から、まずは市教委において文書の重要度を区分けし、文書発出の精査を行うことが必要である。そこで、情報共有や活用できる資料、学校現場で活用できるサイトへのリンク集などについては、校務支援システムや Microsoft Teams 等でいつでもアクセス、活用できるところへ格納したり、教員を対象とした研修・啓発イベントは校務支援システムに掲載、児童生徒や保護者対象のイベント案内などについては、市教委から学校保護者間連絡システムで学校・家庭に同時送信したりと、ICT の活用による校務改善を進めている。

また、本市は学校保護者間連絡システムを導入したことにより、パンフレットやリーフレットの類はペーパーレスで送信可能となったことから、県教育委員会や東葛飾教育事務所へのデータでの情報共有を働きかけていきたい。

#### **e. 「柏市教育情報セキュリティポリシー」の定期的な周知・運用の確認**

文部科学省発出の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の改訂のタイミングで「柏市教育情報セキュリティポリシー」の見直しや改訂を行い、現状にあったセキュリティ対策基準の作成及び運用ができています。また内部監査実施要領に従って、教職員に向けて柏市教育情報セキュリティポリシーを維持・管理する仕組みが組織において適切に整備・運用されているかを点検・評価し、その評価によって実地監査も行っている。

これからは内部監査の一環である簡易的な運用の確認ができる「自己点検」の機会を増やすことで、引き続き教職員一人一人の情報モラルの育成やサイバー攻撃に対する危機管理能力の

向上を図るとともに、重要性分類Ⅰ～Ⅱに分類される情報資産をクラウド上で扱う運用の拡大を検討し、校務の利便性を高めていきたい。